方向性1:福島県地域公共交通利便増進実施計画の一部改定

- 県北圏域、県中・県南圏域の地域間幹線系統について、令和7年10月からの再編・見直しを内容とす る「地域公共交通利便増進実施計画」を策定し、令和7年6月11日付けで国土交通大臣による認定
- 輸送量15人未満の系統を中心に**継続検討とされている系統**について、再編等の協議が調い次第、**計画 の一部改定**を行うこととし、必要な予算を計上(令和8年10月以降の再編を想定)

方向性2:オープンデータ化支援

- より正確な運行情報の発信を始め、利用者が求める乗換案内や経路検索など利便性の向上を図るため、 引き続き、GTFSデータのオープンデータ化を引き続き推進
- 今和8年度も継続して**市町村に対するGTFSデータ作成支援を重点的**に行うために必要な予算を計上
 - ・GTFSデータの基礎勉強会(新規担当者向け)
 - ・GTFSデータ作成講習会(県内2会場程度を想定)
 - ・GTFSデータサポート講習会(市町村の要望に合わせた講習)
 - ・GTFSデータの更新サポート
 - ・GTFSデータの作成・更新マニュアルの公開 など
 - ■今後のスケジュール



キャッシュレスデータ 活用方法の検討

キャッシュレスデータ 活用事業の実施

県内市町村のオープンデータ化率(想定)



域内交通(予約型の運行を除く)を運行し ている24市町村を対象にGTFSデータ作成 講習会を毎年実施し、R12年度末までに オープンデータ化率100%を目指す。

令和8年度協議会事業計画及び予算の方向性(案)

<u>方向性3:地域・企業・学校等と連携したモビリティ・マネジメントの推進【バス関係】</u>

- 利便増進実施計画において再編した系統を中心に、 マイバス意識を醸成し、バス利用促進を図るための取組 に必要な予算を計上
- その他、バスまつり等の開催を支援
- なお、福島大学構内において、作成したリーフレットを 活用したバスの乗り方教室を実施(吉田ゼミ生考案)

想定事業

①見直した系統に係るリーフレットの作成

再編した系統を対象に、再編内容や利用に当たっての 関連情報等を周知

②中学生・高校生向けの周知資料の作成

再編した系統の沿線の学校を対象に、公共交通による 通学方法等を周知

③公共交通デジタルマップの保守運用

バスを中心とした公共交通の利用促進のため、令和6年度に構築したデジタルマップの保守運用(継続)

※ 令和7年度に福島大学において実施したモビリティ・マネジメントについては、取組手法等をとりまとめの上、水平展開を予定

第15回福島バスまつり (令和7年9月27日)



子どもたちに人気を集めた「お絵描きバス」

バスの乗り方教室 (令和7年10月8日)



福島大学構内でラッピングバス車両を使用

令和8年度協議会事業計画及び予算の方向性(案)

方向性3:地域・企業・学校等と連携したモビリティ・マネジメントの推進【鉄道関係】

● マイレール意識やマイステーション意識の醸成のため、知事と沿線市町村長が地域住民の皆さん等と 列車内で意見交換する事業を令和6年度からスタートしている。令和8年度以降も継続して実施。

常磐線(原ノ町駅〜小高駅)を乗車 (令和7年6月10日)



南相馬市地域おこし協力隊と意見交換する知事、南相馬市長



原ノ町駅から小高駅間を乗車

阿武隈急行線(高子駅〜梁川駅)を乗車 (令和7年7月28日)



阿武隈急行の新入社員と意見交換する知事、伊達市長



高子駅から梁川駅間を乗車

令和8年度協議会事業計画及び予算の方向性(案)

方向性4:市町村及び圏域における計画策定等に係る支援

- 制度に係る勉強会の開催など、県に対し技術的支援を求める声が多かったことを踏まえ、令和7年度は会津圏域公共交通活性化協議会と連携し、「交通空白」解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト「モビリティ人材育成事業」により、地域公共交通計画の実行性を高めるためのセミナーやフィールドワーク等を開催
- 令和8年度も関係機関等と連携し、勉強会やセミナー等を開催

R 7 取組

■7月31日(木)

第1回担当者向け セミナー (会津若松市役所、オンライン併用)



福島大学吉田教授による講演などを通して、 制度や交通に関する知見について学ぶ

■10月3日(金)

第2回担当者向け 座学及びフィールドワーク (会津若松市勤労青少年会館、現地調査)



利便増進事業の制度等を座学により学んだ後、 路線再編を行う予定場所の現地を確認

今後、管理職向けのセミナーやデータ活用に係るワークショップ(データ処理、集計、 分析等の実践的なスキルを学ぶ)などを開催予定